

【学校経営ビジョン】

「チーム東小～3C1S・東小の5氣・凡事徹底・3ワーク・和をもって貴しと為す」等をキーワードとし、「よき伝統の継承」を念頭に置き、「創造・工夫による改善」を図りながら「新たな伝統の創造」を目指すことを教育理念とする。そして、全ての教職員の共通理解・共通実践を基盤として、「児童の確かな学力の向上」に力を入れるとともに、「東小ならではの教育活動」を展開し、保護者や地域住民の信頼と期待に応えられる「開かれた学校づくり」を推進する。

重点目標	主な達成手段	結果の考察・分析・改善策等	自己評価	関係者評価	学校関係者評価委員の意見
<b>知育</b> 基礎・基本の確実な定着と学力の向上	1 Web単元評価システムの活用し、単元テスト学級平均点「期待平均点+5点」以上を目指す。 2 妻ヶ丘地区小中一貫教育の取組を通して、学力向上を目指した授業実践を推進する。 3 図書館サポーターと連携し、貸出数及び多読賞受賞者を増やし、児童の読書力の向上を図る。	1 授業が分かると答えた児童が85%以上であり、更に個別指導を徹底し学力下位層の引き上げに努める必要がある。 2 一人1研究を行い、授業を相互参観することで授業改善を図ってきた。新学習指導要領完全実施に向けて研修を行う。 3 学校での図書貸出数は1月末で35965冊と高い。家庭でも読書の習慣ができる方を講じていく必要がある。	3. 2 2. 9 3. 1	3. 4 3. 4 3. 4	○ 授業や学校行事から、教職員が一枚岩になって、知・徳・体のバランスの取れた児童の育成に取り組んでいる姿が窺える。 ○ 県読書感想文において全学年において優秀な成績を収め感心した。
<b>徳育</b> 基本的な生活習慣の定着と豊かな心の育成	1 「無言清掃・あいさつ(会釈)・廊下歩行・履き物並べ・立腰」等の達成率8.5%以上を目指す。 2 アンケートで「学校が楽しい」と回答する児童が95%以上になるように、道徳及び体験活動の充実を図る。 3 避難訓練(年4回)及び安全指導を実施し、「自分の命は自分で守る」児童の育成を図る。	1 学習中の立腰が崩れやすく、返事・あいさつの声が小さい。基本的な生活習慣やきまりについて随時指導していく。 2 約92%の児童が「楽しい」と回答している。否定的な児童を把握し見守りと指導に努めていく。 3 交通安全教室が2学期の実施となった。1学期に実施し、指導後に自転車に乗れる範囲を広げていく。	3. 0 3. 2 3. 2	3. 3 3. 4 3. 4	○ 朝の交通指導時にあいさつがよくできる子がいる。家庭の指導が行き届いていると感じた。 ○ 民生・児童委員が振替休業日にあいさつ運動に来たことがあった。今後は会長との連絡を徹底してほしい。 ○ 「ツイタもん」が活用できるように教育委員会と連携して利用者を増やしてほしい。
<b>体育</b> 基礎体力の向上と健康的な生活習慣の定着	1 体力テストTスコア50以上の種目を男子25、女子20以上、またD・E判定が男子23%、女子25%以下になるように、体力向上プランに基づく指導を徹底する。 2 「早寝・早起き・朝ごはん」等の達成率8.5%以上を目指す。 3 「親子料理・弁当の日」等の実施に向けて、関係機関等と連携し、指導を計画的に推進する。	1 授業の初めの時間に落ち込みの見られる補助運動を取り入れ体力向上を図っている。水泳指導は藻の発生のため、次年度から1学期で終了する方向で検討していく。 2 「早寝」ができていないようである。今後も家庭へ協力を依頼していく。 3 夏休みに「親子料理」、3月のお別れ遠足で「弁当の日」を計画的に学年に応じた指導を行っている。	2. 7 2. 8 2. 7	3. 2 3. 2 3. 3	○ 「早寝・早起き・朝ご飯」や「弁当の日」の取組など、家庭との連携が必要である。
<b>ふるさと教育</b> 家庭・地域との連携と開かれた学校づくり	1 学校便りを毎月発行し、HPの更新を頻繁に行い、学校の教育活動への理解を深める。 2 地域人材・素材を積極的に活用するとともに、妻ヶ丘地区の活動への協力を推進する。 3 学校運営協議会を開催し、学校運営について評価を受け、今後の工夫・改善に生かす。	1 学校便りは毎月、HPは月数回の更新ができた。本年度は100周年実行委員会のフェイスブックの発信もできた。 2 本年度は延べ400名のボランティアの方々に協力をいただいた。連絡体制を整え、更に積極的な活用を図っていく。 3 計画的に実施できた。評価を前もっていただき、早めに反省・改善に活かすことができた。	3. 4 2. 9 3. 0	3. 5 3. 4 3. 5	○ 地区での行事参加数が毎年減っているの地区長から保護者へ積極的な呼びかけを行ってほしい。 ○ PTA活動の講師を招聘してのキャリア教育はすばらしいので、今後も継続してほしい。 ○ 携帯電話の使用やSNSへの対応など、学校に求めるものが多くなっている。家庭ですべきことは家庭で指導するべきである。